



經濟上ヨリ觀タル幕政ノ崩壊(1)

石澤, 久五郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 22(6):967-980

(Issue Date)

1917-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052719>



經濟上ヨリ觀タル幕政ノ崩壞 (其二)

(産業史研究ノ一章)

ドクトル、オア
フイロソフイー

石澤久五郎

徳川幕政時代ニ於ケル封建政治ハ三百ニ分タレタル知行地即チ領土ニソノ基礎ヲ置キ同數ノ大小名ニヨリ支配セラレタルノ政治ナリ、而シテ是等ノ大小名ハソノ所領地内ニ絶對的支配權ヲ有シ、ソノ隣接セル他領地ニ對スル關係ハ全ク割據的獨立ニシテ常ニ戰時ニ於ケル防禦的態度ヲ持續シ政治的障壁ヲ立テ經濟上自由ナル交渉ヲ抑制シタルナリ。即チ封建政治ハ諸侯ニヨリテ孤立的ニ支配セラレタルノ地方分權政治ナリ。而シテソノ政治ノ目的ハ戰時ノ狀態ヲ持續シテ自己領土ノ政治的獨立ヲ維持セントスルニアリ、更ニコノ政治的獨立ヲ全フセシガタメニ孤立的經濟ノ強キラレ、又維持セント努メタルモノナリ。思フニ孤立的經濟ニアリテ、最モ必要ナルモノハ食物即チ米穀ナリ、諸侯ノ知行地ガ石高ニヨリテ表示セラレタルハコレガタメニシテ、農本主義ハ封建時代ニ於ケル根本的經濟思想ナリ、如斯基孤立的經濟ハ自給自足ノ經濟ニシテ農業ヲ以テ人民經濟生活ノ中心トナシタルモノナリ。カクテ農作ハ勿論ノコト家内手工業ト雖モ多クハ自給自足ノタメニ生産セラレタルモノニテ交換營利ヲ目的トシタルモノニハアラザリキ、偶々後者ノ目的ヲ以テ生産セラル、少許ノ手工業ニアリテモソノ經濟範圍ハ所在ノ地方又ハ領土内ニ限ラレタルモノナリ。故ニソノ經濟地域ヨリイハハ地方經濟ニシテ國內經濟ニマデ發達セザリシナリ。如斯、三百ノ大小名ハ各自ソノ所

領ニ割據シテ政治的獨立ヲ維持シツ、地方分權ノ狀態ニアリシモ徳川氏ハコノ封建制度ニ伴フ地方分權ヲ維持スルト共ニ更ニ一面ニ於テハコレヲ中央ニ統轄スルノ對諸侯政策ヲ立テタリ、即チ大小名ニ對シ參觀交代及ビ定府ヲ強要シタルコトコレナリ。コノ對諸侯政策ハ徳川氏ノ取リタル封建政治ノ眼目ニシテ政治上幕府ノ執政ハ三百年ニ互リ統一の二三百年ノ諸侯ヲ駕御シ得タリシナリ。然カモソノ巧妙ナル政策ト雖モ產業ノ發達ニ伴フ自然ノ經濟的進歩ニ隨從シ能ハザリキ。即チ封建制度ヲ維持スルノ政略トシテハ成功シタリシモ、經濟政策トシテハ固定的ニ封建制度ヲ維持セントシタルモノナリシガ故ニ產業ノ發達ニ逆行スルモノナリキ。

サテ產業發達ノ大勢ヨリ觀察スルニソノ國情ニヨリ、又ソノ時勢ニヨリ各國ソノ發達ノ樣式ヲ異ニシ、緩急遲速一ナラズト雖モ發展ノ一路ニ進ミツ、アルハ疑フベカラズ。而シテ政治的制度ハソノ時代ニ於ケル經濟的生活ヲ基礎トシテ案出セラレ、組織セラル、モノナリ。サレバ我ガ日本ニアリテ氏族ノ一團トシテ土地ヲ所有シ、ソノ氏族ニ屬スル氏人及ビ隸屬タル部曲^{トモ}又ハ家人^{カキベ}ニヨリテ農業ノ行ハレタル時代ニ採用セラレタル政治的制度ハ骨即チ氏族制度ナリキ。其後經濟ノ發達ハ氏族ヲシテ分裂セシメ、經濟上ノ單位ハ氏族ヨリモ即チ家族ニ移レリ。農耕ハ斑田制度ニヨリテ營マルルニ至レリ。大化ノ政治的革新ハ此經濟的變化ニ應ジタルモノナリ。經濟ノ發達ハ政治的制度ノ常ニ固定シ易キモノナルト反對ニ、不斷ニ行ハル、モノナリ。コノ故ニ斑田ノ制度ハ人口ノ増加、經濟事情ノ變化ト共ニ紙上ノモノトナレリ、土地ハ漸クニシテ地方權力者ノ占有ニ歸シテ莊園トナリ更ニ、一轉シテ知行地即チ所領地トナレリ、於是農耕業ハ莊司又ハ領主ノ隸屬者トシテノ戸即チ家族

ニヨリテ行ハル、ニ至レリ、コノ家族ヲ單位トセル農業經濟ヲ基礎トシテ組織セラレタルモノハ封建制度ナリ。已ニ論ジタルガ如ク三百ノ大小名ハ各地方ニ散在シ、且ツ割據セリ、而シテ彼等ハツノ所領地内ニアリテ獨立セザルヲ得ザリシノ事情ヨリ自給自足ヲ主トセル地方的農業經濟ニ依頼セリ、カクシテ農業保護ノタメニ土地ノ永代賣買禁止トナリ、土地ノ自由ナル轉賣ハ抑制セラレタリ、從ツテ元來保守的ナル農民トシテ益々保守的ノモノタラシメ、傳來ノ慣習ヲ重ンジ、父祖ノ家業ヲ繼承スルニ満足セシメタリ。然リ如斯キハ封建制度ヲ維持スルニ最モ必要ナル氣風タリシモ尙ホ緩カニテ經濟的變化ノ休止スルモノニアラズシテ、徳川幕府三百年ノ太平ハ人口ノ自然的増加トナリ都市ノ發達トナリ、ソノ結果ハヒトリ農民ニ及ビタルノミナラズ、又武士階級ニモ及ベリ、即チ武士階級ニ於ケル人口ノ増加ハ分家分知トナリ、次イデ小封小祿トナルノ弊著シキニ至レリ、於是、徳川中世以後分知分祿ノコト抑止セラレテ小封小祿ノ弊漸ク減ジタリシモ尙彼等子弟ノタメニ養子制度ナド行ハル、ニ至リテ、種々ノ緩和策ナド講ゼラレシモ、次第ニ加ハル彼等階級ノ經濟的困難ハコレヲ濟フニ道ナカリキ。又農民ニアリテモ同一ニシテ、コレニ應ジ新田ノ開墾セラル、モノ少カラザリシモ人口ノ増加ハコレニモマサリテ多カリシモノ、如ク想像セラレタルト共ニ、幕府及ビ諸侯ニヨリテノ國產獎勵ハ彼等ノ日常經濟ニ影響シテ漸進ナルニモセヨ生活費ノ増加シタリシナルベク從ツテ何事ニモ保守的ニシテ慣習ヲ重ンズル彼等ヲ導キテ困難ナル經濟狀態ニ陷ラシメタリキ。然レドモコノ武士階級及ビ農民ノ經濟的困難ヲ感ジツ、アルノ時ニ、足利氏ノ季世ヨリ著シカリシ都市ノ發達ハ徳川時代ニ入り更ニ著シク、從ツテ三都及ビ諸侯ノ城下ハ貨物集散ノ中心地トナ

リテノミナラズ、幕末竝ニ諸侯ガ國產ノ保護獎勵ニ意ヲ用キタリシヲ以テ工藝及國產ノ製造ハ大ニ發達セリ、即チ地方ハ自給自足ノ經濟狀態ニ甘シ辛フジテ傳習的農業ニ從事シツ、アリシ間ニ、都市ニ於ケル經濟狀態ハソノ工業ノ發達ト共ニ自給自足ノ經濟ヨリ交換營利ノ經濟ニ進ムノ活動的狀態ニ入りタリシナリ。コノ經濟上ノ變化ハ農業經濟ニ大ナル影響ヲ與ヘタリシヲ以テ農業經濟ニソノ基礎ヲ置キタル封建制度ノ維持ニ甚ダ不利ナルモノトハナレリ。併シコノ經濟的變化ハ經濟發達上自然ノ大勢ナレバ人爲のニ抑止スベクモアラズ、徳川幕府ハコノ產業ノ發達ニ伴フテ根本的ニ自ラ改造スルカ、然ラザレバ自ラ崩壞スルカノ運命ニアリシモノナリ。

(註) (1) 『石高ハ徳川時代ノ初メ、即チ天正慶長ノ時分ニハ全國都千八百萬石、ソレガ元祿頃ニナツテカラ二千六百萬石ニナリ、天保ニ至ツテ徳川幕府ガ盛チ極メマシタガ三千萬石ト言ツテ居ル……今日五千萬石ノ米ガ日本全國デトレル……經濟學デ申シマスレバ食物ト人口トハ動カヌ比例デアリマスカラ五千萬石ニ對シテ五千萬人無クテハ米ガ腐ツテ仕舞フ五千萬人ノ人口ガアルトイフ事ガ分ル、即チ天保年間ハ三千萬人、天正年中ハ千八百萬ノ人口ガアツタラウトイフ事ガ石高デ推測ラレルノデス、又元祿年中ニハ人口ガ二千六百萬人アツタラウト思フ。』(吉田東湖氏維新史八講二十五—六頁) 依是觀之ニ元祿以後百二三十年間ニ四百萬人許ノ増加アリタル譯ニテ、石高ノコレニ應ジテ増加シタルハ新田開墾等ノアリタルタメナルヤ疑フベカラズ、而シテ明治初年ノ人口ハ三千三百萬人ナレバ天保以後四十年間ニ三百萬人許ノ増加アリタル譯ナリ、如斯人口ノ増加割合ガ今日ノ増加割合ニ比スレバ甚ダ少ク、年々三四萬乃至七八萬ニ過ギザリシナリ、カク人口増加ノ遲緩ナリシハ農業經濟維持ノ必要ヨリ抑制セラレタリシ結果ナルベク、即チ墮胎ノ弊風ノ到ル處ニ行ハレタルノ事實ニヨリテ知ルヲ得ベシ、而シテ農業經濟ノ維持ハ一方都市ニ於ケル商工業發達ノ大勢ニ影響セラレテ漸ク困難トナレリ、農民ノ疲弊コレナリ。

如斯、封建制度ハ自給自足ニ満足スル地方的農業經濟時代ニ適合スルノ制度ニシテ、交換營利ヲ目的トスル國家又ハ世界的工業經濟時代ニ於ケル經濟的進步ニ伴ハザルノ制度ナリ。故ニ產業發達

ニ逆行シテ封建制度ヲ維持セントスルハ不可能ノコトナリ。コノ故ニ徳川幕政ノ衰亡ニ關シテ普通ニ幕府實力ノ減殺、外國ノ刺激及ビ尊王論ノ勃興等ノ諸原因ヲ舉グルモ、コレヲ經濟上ヨリ觀察スレバ幕府實力ノ減殺ニ歸セシムベク、更ニ窮極スレバ封建制度ソノモノ、性質トシテ農業ノ發達ト並行シテ進ム能ハザリシニヨルモノナシ。而シテコノ根本原因ガ經濟現象トシテ事實ニ現ハレタルモノヲ稱シテ、幕府衰亡ノ經濟的原因ト言ヒ、總括シテ三トナス、農民ノ困憊ハソノ一ナリ、商工勢力ノ増進ハソノ二ナリ、一般武士階級ノ疲弊ハソノ三ナリ。以下順ヲ追フテ是等經濟的原因ニツキテ詳叙スベシ。

一 農民ノ困憊 農業經濟ヲ基礎トシテ組織セラレタル封建制度時代ニナリテ最モ重ンゼラレタル經濟人ハ農民ナリ、從ツテ農業經濟ノ維持ト相俟チテ農民ハ極度ニ保護セラレタリ、即チ徳川氏ハ早クモ前代兼併ノ弊ニ鑑ミテ⁽²⁾寛永二十年一般農民ニ令シ其所持ノ田宅ヲ永遠ニ賣買スルコトヲ嚴禁セリ、コレ⁽³⁾富民ノ兼併ニ走ルヲ防ギ、且ツ同時ニ農民ノ小作ニ轉ズルヲ止メントスルノ農民保護ノ政策ナリキ。然カモ徳川幕府三百年ヲ通ジテ執リタル根本的經濟政策ハ⁽⁴⁾「如何ニシテ國民ノ富ヲ増加スベキカ」ヨリモ「如何ニシテ此有限ノ富ヲシテ多ク政府ノ掌中ニ收メ得ベキカ」トイフニアリシモノ、如ク、幕府ノ財政政策ハ富ノ増殖ニ依ラントセルヨリモ唯富ノ所在ヲ變更スルニ過ギザリキ。而シテ⁽⁵⁾幕府ハコノ心ヲ以テ諸侯ニ臨ミ、又諸侯ハコノ心ヲ以テ遞次ニ人民ニ臨ミタリキ。サレバ人民全體ノ發達トイフガ如キハ第三第四トシテ最初ニ考ヘラレシモノハ武力ノ維持、言ヒ換フレバ幕府又ハ諸侯自身ノ存在コレナリ。於是乎、ソノ田租及ビ賦役ノ決シテ輕カラザリケ

レバ、遂ニ(6)山鹿素行ノ如キ學者ヲシテ「今我邦田十町ノ所穫百五十石ニシテ、其五十石ヲ收納ス
是ヲ五成ト云ヒ、百石ヲ收納スルヲ十成ト云ヘリ、是ヲ異朝古ノ十ガ一ノ制ニ比スルトキハソノ租
稅甚ダ重シ、五十石ヲ納ムルハ三分ノ一、百石ヲ收ムルハ三分ノ二ナリ」云々トソノ重課ヲ歎ゼシ
ムルニ至レリ。尙徳川幕府時代ニ於ケル經濟ノ基礎ガ農業、殊ニ米穀ニ置カレタルモノナリシカバ
幕府及ビ諸侯ハ重課收入主義ナル財政上ノ必要ヨリソノ府庫ヲ充實スルノ政策トシテ、兎ニ角ニ農
民ヲ工商ノ上ニ置キ一般ニ(7)農業、殊ニ米作ノ獎勵ニ力ヲ臻シタルヨリ徳川三百年ノ太平ト相俟チ
テ耕種ノ技能モ頗ル精巧且ツ集約ニ進メリ、(8)更ニ加フルニ人口ノ増加ヨリ來ル自然的壓迫ハ農民
ヲシテ荒地ヲ開墾セシムルニ至レリ、新田、新村、及ビ新開等ト稱スルモノコレナリ、而シテ人口
ノ増加ニ伴フ米穀ノ增收アリシハコレガタメナリ。如斯、耕種ノ技藝ニ於テモ、集約トナリ、又米
穀ノ收穫ニ於テモ増加セルニ拘ラズ、農民ノ負擔ハ輕減セラル、コトナク、カヘリテ重課セラル、
ニ至リ幕政ノ中世ヨリ季世ニカケテ財政上ノ困難ハ年々ニ甚ダシク、其ノ結果トシテ幕府及諸侯ハ
各自ソノ領内ニ於ケル農民ニ對シ誅求スルノ已ムナキノ窮狀ニ陥リ重稅ハ賦課セラレ、更ニソノ先
納ハ強要セラレ、又御用金ノ割當テラル、ヨリ農民ノ負擔ハ益々加ハレリ。加フルニ新田ノ開墾及
ビ農作ノ進歩ヨリ來ル增收ハ過度ナル米穀ノ供給トナリ、江戸及ビ大阪ノ中心市場ニ於ケル標準價
格ヲシテ下落ニ傾カシメタリシヨリ農民ハ豐作增收ノ年ニアリテモ入ルベキ收入ニ増加スルナキノ
苦境ニ沈ミ、又ソノ歲ノ凶作ニシテ減收スレバ封土分裂シテ交通運輸ノ不便ナリシト、各藩境界ノ
鎖鑰嚴重ナリシト相互ニ交錯シテ饑饉ノ窮地ニ陥リシコト一再ニアラザリシヨリ、農民ノ疲弊ハ更

ニソノ度ヲ加ヘタリ。マタ幕府カ財政上ノ困難ヲ救ハンガタメニ自ラ取リタル姑息ノ財政政策即チ惡貨鑄造ノコト屢々行ハレタルヨリ市場ノ物價ハ平準價格ヲ失シ農民ノ經濟生活ヲシテ益々困難ヲ感ゼシムルニ至レリ。而シテ農民疲弊ノ關係の原因トモミルベキハ都市ノ發達ニ伴フ商工業者ノ勢力増進コレナリ。即チ三都及ビ各城下ニ於ケル商工業ノ發達ハ自給自足ノ地方經濟ヨリ漸次ニ交換營利ノ國民經濟ニ移ルノ趨勢ヲ作り、コレヲ經濟ノ發達ト共ニ一般ニ生活程度ヲ高フシ殊ニ江戸ニ於ケル交替居住ノ武士階級ノ住還ト、モニ高マリシ生活狀態ガ地方ニモ移入セラレテ農民ノ經濟生活ニ大ナル影響ヲ與ヘタリ。而シテコノ農民生活ニカケハナレタル影響ハ農民ヲ驅ツテ困難ナル生活狀態ニ陥ラシメタリキ。既ニ是等ノ諸原因ヨリソノ互ニ抱合シ、交錯シテ農民ノ疲弊スルハ遂ニ免ルベカラザリシナリ。而シテ(9)松平定信ノ手記スルトコロニヨルニ天明五年ヨリ六年ニ至ル一年間ニ農民ノ數ヲ減ゼシコト實ニ百四十萬ノ多キニ上レリト言ヘリ。而シテソノ結果ハ地方ニ於ケル耕田ノ荒廢スルノミニシテ都會ニ於ケル遊民ノ數ハ著シク増加セリキト、如斯、徳川幕府時代ノ農民ハ不利益ナル經濟狀態ニ置カレタリシナリ、更ニコレヲ政治上ヨリ觀察スルニ彼等ハ高壓のニ服從ヲ強イラレ個人ノ自由ハ全ク束縛セラレタリ、即チ(10)農本主義ノ經濟ニ政治ノ基礎ヲ置キナガラ農民ヲミルコト土地ニ附隨スル牛馬ニ優レリトハ認ムルモ尙武士階級トハ全ク種ヲ異ニスルモノ、如クニ考ヘラレタリ。從ツテ武斷的監察的封建治下ニ於ケル農民ハ各自ノ有スル智力ト產業的能力トヲ充分ニ發揮シ得ルノ訓練ト機會トヲ與ヘラレザリシナリ、コレ我國古來ノ思想タル尊卑貴賤ノ階級思想ニ支配セラレテ一般人民ヲ賤視シタルノ結果ニシテ、餘習ノ及ブトコロ尙今日ニモ殘レリ

而シテ當時ニ於ケル農民ガ屢々竹槍蓆旗ニヨリテ武士階級ニ反抗シタルコトアリシモ獨立自主ノ精神ハコレヲ養フノ餘地ナク、從ツテ自發的ニ殖産興業ニ努ムルノ勇氣モナク、タゞ傳習ニ拘束セラレテ

(註) (11) 困憊セル經濟生活ヲ持續スルニ過ギザリシナリ。

(註) (2) 吉田東伍博士 倒叙日本史 第五冊 二〇二頁

(註) (3) 同 書 第五冊 二〇四頁

(註) (4) 同 書 第五冊 二六七—六八頁

(註) (5) 幕府ガ參覲交代及ビ定府ヲ諸侯ニ強ヒタル、又諸侯ガ自ラ窮乏スルヤ「領内百姓ノ田畠ヲ典當トシテ他領富豪ノ金穀ヲ借りテ、終ニ無辜ノ中民ヲシテ流離困頓セシムルモノアリシ」(小林氏幕末史)ガ如キコレナリ。

(註) (6) 吉田博士 倒叙日本史 第五冊 二〇五頁

(註) (7) 米作以外ニモ物産ノ獎勵セラレタルモノ多シ即チ「吉宗命ジテ甘蔗(砂糖)烏臼(木蠟)煙草、蕃藷、人參、蜜柑、駿馬、乳牛等ヲ遠地ヨリ各處ニ傳ヘシメ或ハ海外ヨリ求メシムルアリ。蕃藷ノ移植ノ如キ數年ニシテ諸國ニ普ク、之ニヨリ饑饉ヲ免ルモノ多シ」(吉田東伍倒叙日本史第五冊二一四頁)トアルガ如キコレナリ、如斯國產獎勵ノ聲高マリシハ長崎舶來ヲ防止セントシタルモノナリ。

(註) (8) 全國石高二千百八十萬石(日本海陸道記、國花萬葉記、日本鹿子大略同ジ)蓋シ元祿以前寛文中ノ數ガ、二千五百七十八萬石(官中秘策)元祿享保ノ間ナルベシ、三千餘萬石ト稱スルハ天保中ノ事歟(吹塵錄)、ミナ「倒叙日本史」ニ引用セルトコロニシテ、是等ノ石高ハ收穫即チ作モノ見積ナリ、以テ米作ノ増加ヲ知ルベシ。

(註) (9) 小林庄次郎氏幕末史 四六—七頁

(註) (10) 惟フニ封建制度ハ畢竟武備機關ニシテ社會ノ文物生産皆武ヲ主トセザルハナシ、(中略)産米ヲ獎勵シ農耕ヲ改良シ、畢竟強兵ノタメノミ、則經世ノ士其憂フルトコロハ武家ノ窮乏ト武道ノ頹廢ナリ、隨ヒテ其畫策スルトコロ皆武ヲ中心トセザルハナシ、(中村氏井伊大老傳)

(註) (11) 此武士ハ……諸所ニ城廓ヲ構ヘ皆其君主ヲ擁シ(中略)城ノ内外ニ居ル。工商ハ僅ニ其城下町ニ屈マリ住ミ、又百姓ハ此城市ヲ圍繞セル田畝ヲ耕シ、山川ニ獵シテ城市ノ需用ニ應ヘ其餘力ヲ以テ辛フシテ其村里ヲ支フルノミ云々(同上)。

二 商工勢力ノ増進 足利氏ノ季世以來著シカリシ都市ノ發達ハ徳川幕府時代ニ入リテ、ソノ三

百年ノ太平ト共ニ一層顯著トナレリ。即チ江戸ハ政治的ニ發達シタリシガ故ニ消費經濟ノ中心トナレリ又大阪ハソノ地理的關係ヨリ經濟的ニ發達シタリシヲ以テ貨物集散ノ中心トナレリ。而シテ諸侯ノ城下及ビ宿場ハソノ所領地域ニ於ケル大小ノ經濟的中心トナレリ。コレ等ノ都市、城下及ビ宿場ハソノ地方ニ於ケル所謂國產ノ増進ト共ニ發達セリ、而シテ大小都市ノ發達ハヤガテ商工業者勢力ノ増進ナリキ、コレヲ事實ニ檢スルニ徳川幕政時代ニ入りテ從來農民ガ片手間ノ商賣又ハ手仕事トシテ營ミタリシモノガ、商工業者トイフ經濟階級ノ發生トナリ及ビソノ發達ニヨリテ專門ニ營業ル、ニ至レリ。サテ如斯商工業者ノ増加スルニ至リタル所以ノモノ、少クトモンノ一半ハ幕府及ビ諸侯ガ武力維持ノ必要ヨリナリシニモセヨ、直接ニ間接ニ國產ヲ獎勵シタルノ結果ニ歸セザルベカラズ、然カモコノ國產ノ獎勵ハ農業經濟ニ基礎ヲ置ケル封建政治ニ不利ナルモノナリキ。故ニ經濟上ヨリ見テ、徳川幕政ノ崩壞ハソノ端緒ヲコ、ニ發セリト云フヲ得ベク而シテ國產ノ發達ハヤガテ都市及ビ城下ニ於ケル町人ニ利益ヲ與ヘ遂ニ彼等ヲシテ次第第二ノ勢力ヲ増進セシムルニ至レリ。サテ國產獎勵ニ關スル二三ノ例ヲ舉ゲテ幕政時代ニ於ケル工藝發達ノ一片ヲ叙スベシ(1)八代將軍吉宗ノ如キハ最モ國產獎勵ニ心ヲ用キタルノ第一人者ニシテ種々重要ナル農產物ノ傳播ニ努メタルノミナラズ、養蠶、織物、染物及ビ海產物等ノ獎勵モ力ヲ盡セリ、サレバ幕政時代ニアリテ國產ト稱シ各地ニ運輸交易セラル、モノコノ時ニ創メラレシモノ多シトイヘリ。更ニ諸侯ニアリテモ意ヲ各自領内ノ國產獎勵ニ臻サルモノナシ、例令バ(2)尾州ノ徳川家ハ瀬戸、赤津、品野三箇村ノ窯場及ビ製造場ヲ無役除地トナシ瀬戸村ニ會所ヲ置キ窯戸中ヨリ窯方取締人竝ニ藏元ヲ採用シ窯出シモ一官吏ノ立會ヲ要スルコト、テ檢査ヲ經タル上ニアラザレバ販賣スルコトヲ許サズ、瀬戸ノ陶磁器

ハ總テ勘定所ヲ經テ諸國ニ輸出シ其代金モ亦勘定所ノ手ヲ經テ窰戸ニ下渡サレタリ、サレバ三府ノ商人ニシテ瀬戸ノ陶磁器ヲ賣リ捌カント欲スルモノアレバ勘定所ヨリ身元ヲ糺シタル上家屋敷ヲ抵當ニ取リテ瀬戸陶器問屋タルコトヲ許サレタリトイヘルガ如キ干涉的保護ヲ加ヘタリ、更ニコレト相似タルモノハ姫路ノ酒井藩ノ國產會所ヲ設ケテ(3)姫路木綿業ノ保護獎勵ニ努メタルコレナリ。又カノ(4)有名ナル仙臺平ハ伊達政宗ノ獎勵アリシニ起因シ、米澤織ハ上杉鷹山ガ丹波ノ織工ヲ招キテ獎勵シタルニ依レリ。其他長濱縮緬、輪島漆器、越前奉書、越後縮緬、土佐半紙、久留米絰、博多帶、薩摩上布及ビ(5)九州其他ノ陶磁器等ミナソノ地方ニ於ケル領主ノ保護獎勵ヲ受ケザルモノナシ而シテ(6)京都ハ早クヨリ絹織物ニ名アリシガ、長崎貿易ノ衰微セシヨリ、養蠶機械ノ關東及ビ奥羽諸國ニ行ハル、ニ至リ、ソノ產額モ漸次ニ増加セリ、殊ニ武州及ビ兩毛ノ機業ハ明和安永ノ頃ニ起リ文政天保ノ頃ニ著シキ發達ヲ遂ゲタリシガ天保十二三年ノ交幕府ノ發セル絹帛使用禁止令ノ爲メニ一時頓挫セザルヲ得ザリキ。又早クヨリ幕府及ビ諸侯ノ保護獎勵ニヨリテ發達シタルモノハ武具武器類ノ製作ニ關スル工藝ニシテ、諸種ノ工匠ハ幕府又ハ諸侯ノ庇護アルヲ以テ非常ノ名譽トナシタルモノナリ。又普通ノ工匠ニアリテモ御出人タルハ彼等ノ誇リトスルトコロナリキ。如斯ク諸侯ノ國產獎勵ニ意ヲ用キタリシ動機ハソノ領内ニ於ケル人民ノ殷賑幸福ヲ欲シタルヨリハ寧ろ藩財政ノ窮乏ヲ補足スルノタメナルカ、然ラザレバ隔年ノ參觀交代ニ當リ進獻贈酬ニ領内ノ所產ヲ他ニ誇ラントスル意氣地ニ驅ラレタルモノニテ、ソノ干涉的獎勵ハ幕政時代ノ幼稚ナル產業ヲシテ或程度マデ發達セシメタルハ疑フベカラザルナリ。更ニ諸侯ノ保護獎勵以外ニ工業者ガ官許ヲ得テ組合團體ヲ組織シ同業者各自ノ保護ニツトメタルモノアリキ、即チ(7)延享中京都西陣ノ高機織屋ヨリ京都

奉行ニ請願シテ松組、竹組、柏組、鶴組、龜組、永字組、紗組ノ七組（後ニ本字組ヲ加ヘテ八組トナレリ）ヲ設ケテ新規加入ヲ禁ジ且ツ織工ノ取締ヲ嚴重ニシタリキ。天明中能登輪島ノ漆器商モ又協同シテ大黒講ト稱スル組合ヲ起シ價格ヲ一定シテ信用ヲ得シガ其後天保中同所ノ漆工相集リテ別ニ遐福講ト稱スル組合ヲ起シ互ニ德行ヲ厚クシ販路ノ擴張ヲ圖リシガ如キコレナリ。カクテ徳川幕政時代ニ發達シタル工業ノ殆ンド總テガ家内工業ニシテソノ規模ハ大ナルモノニアラザリシモ生産増加ノ少カラザリシヨリ貨物集散ノ大小中心地タル都市及ビ城下ハ次第ニ殷賑トナリ商賣ハコレニヨリテ利ヲ得タリシヨリ、ソノ富ノ増加ニ伴フ彼等町人ノ勢力ハ漸次ニ蓄進セリ。

更ニ町人勢力ノ發源地タル大阪及ビ江戸ノ財的地位ヲ觀察スベシ。大阪ハ早クヨリ海陸運輸ノ集會タリシタメ、貨物集散ノ一大中心地トシテ發達セリ、即チ(8)四代將軍家綱ノ時大阪町奉行石丸石見守ノ力ヲ市政ニ盡シ或ハ問屋ヲ結合セシメ、貨物運輸ノ便ヲ謀リ或ハ兩替屋ヲシテ手形ノ流通ヲ盛ンナラシメ、或ハコレヲシテ金銀相場ヲ立テシムルアリ、元祿年間ニハ河村瑞賢ノ安治川改修ノ工事竣成シテ、諸侯ノ物産益々大阪ニ集ルアリ。從ツテ江戸トノ交通ハ益々頻繁トナリタルヨリ享保年中ニハ、大阪二十四組ノ問屋ト江戸十組問屋トノ間ニ聯絡成リ貨物運送ノ便更ニ加ハリ商業ハ年ト共ニ榮エリ、而シテ大阪ノ發達ハ即チ町人勢力ノ増進ナリキ。考フルニ諸侯ガ大阪藏屋敷ヲ設ケテ廻漕米ヲ糶賣セシハ遠ク豐臣時代ニ始リ、徳川幕政時代ニ入リテ益々盛ントナレリ、而シテ幕政時代ノ初大川町ノ淀屋源右衛門トイフ人正米市場ヲ其地ニ設ケテ諸侯廻漕米ノ販賣ヲ開始セルヨリ幾多ノ米商人其店前ニ蟬集セリ、其後寶永年間ニ淀屋辰五郎ノ闕所トナリタルヨリ、元祿十年ニ正米市場ハ堂島新開地ニ移リ、爾來入札法、延賣買法、相次イデ起レリ。然カモ公然官許ヲ得タル

ハ享保十六年十二月以後ニシテ、數次ニ千三百十三ノ米仲買株ノ免許アリシノミナラズ、別ニ五十ノ米六兩替株ノ免許アリタリ、於是米穀ヲ基礎トシテ立テタル諸侯ノ農業經濟ハ大阪米商人ニヨリテ左右セラル、ニ至レリ、殊ニ兩替屋中、十八兩替ト稱スルモノアリテ、公金ノ出納ヲ取扱ヒシノミナラズ又必要ニ應ジ貸付金ヲ爲セリ、コレ御用兩替ニシテ公金取扱ヲ當時御國役トイヘリ、又本兩替屋アリ御用兩替屋ト共ニ秋期ニ於ケル廻漕米ヲ目的トシテ諸侯ニ貸付ヲナセリ、サレド大名貸トイヘリ、更ニ諸藩ヘノ大名貸ガ大阪ガ江戸ニ對シ常ニ貸勘定ノ地位ニアリシヲ以テ江戸爲替ノ方法ニヨリテ行ハル、コト屢々ナリキ。從ツテ大阪町人ハ諸侯ノ財政運用ニ至大ノ勢力ヲ有セシノミナラズ、又幕府ニアリテモ御用金又ハ御買米ニヨリテソノ財政ヲ調節セザルヲ得ザリシヨリ大阪ハ天下ノ臺所トシテ幕府ノ金庫ニモ等シカリシナリ。次ギニ、江戸ハ徳川幕政時代ニ於ケル政治的首府ニシテ消費經濟ノ大中心ナリキ。即チ三百諸侯ノ一半ハ參觀交代トシテ常ニ在府スルガ故ニ、方四里ノ地邸宅コレニ溢レテ、殷賑ヲ極メ、二百三十四年ノ太平ト共ニ尙武ノ風、地ヲ拂ヒテ人心ハ柔弱ニ流レ、奢侈ノ弊風滿都ヲ蔽フニ至リシヨリ消費經濟ハ益々膨脹シ、在府⁽⁹⁾諸侯ハ其藩全收入ノ七割ヲ以テ僅ニ全藩士ノ一割ニ過ギザル江戸寄居ノ藩士ノ用ニ供セザルヲ得ザリケレバ、殆ンド財用ニ窮セザルハナカリキ、コレ藩地ニ於ケル費用ノ九倍ニシテ是等消費貨物ノ交易賣買ノ間ニ巨利ヲ占メタルハ牙籌ヲ業トスル町人ナリキ、サレバ、諸侯及ビ武士階級ノ窮乏スルハカヘリテ町人ノ繁昌スル所以ナリキ。又江戸ニアリテモ大阪ト同ジク諸大名ノ藏屋敷アリ、正徳享保ノ頃江戸ノ人三谷三左衛門等藏米ヲ切手ニテ商人ニ賣渡スノ法ヲ立テ、幕府ノ許可ヲ得、更ニ米座御爲替御用會所ヲ設ケテ諸侯ノ金融ヲ計レリ、而シテ是等藏米ノ賣買ハ後ニ至リ建物米ニヨリ延賣買ノ行ハル

ルコト、ナレリ。カクシテ諸侯及ビ武士ガ町人ノ繁昌スルニ快カラザリシモ、自家ノ窮乏ヲ補綴スルノ必要ヨリ勢ヒ町人ノ助力ヲ乞ハザルヲ得ザリシカバ、却リテ經濟上彼等ノ支配ヲ受クルノ姿トナレリ。更ニ商工業ノ發達ト共ニ大阪及ビ江戸ニ商工ノ株式仲間ナルモノ起レリ、即チ元祿七年ノ頃江戸ニ十組問屋起リ、同時ニ大阪ニモ亦十組ノ組合アリタリ。其後漸次種々ナル職業ノ加ハリテ享保ノ頃江戸ニハ二十二組ニ増シ、大阪ニテハ二十四組トナレリ。而シテ是等ノ組合ハ毎年幕府ニ冥加金ヲ納メ、コレニヨリテ一定ノ特權ヲ得タリ。文化五年江戸及ビ大阪ノ組合ハ海運同盟ヲ結ビ相互間ニ密接ナル聯絡ヲ保テリ、コレヲ菱垣廻船トイヘリ。文化十年是等組合ハ請願シテソノ數ヲ定メ毎年運上金ヲ納メ其組合員ニハ株札ト稱スル特許狀ヲ付與セリ、於是乎全ク排他的獨占的ノモノトナレリ。而シテ天保ノ初ニ樽廻船トイヘル數組ノ特許セラレタルハ、蓋シ當時ニ於ケル物價騰貴ヲ以テ組合獨占ノタメナリト思惟シタレバナリ。尋イテ水野越前守執政ノ時、組合ハ解散ヲ命ゼラレ營業ハ自由ナルヲ得タリシガ物價ハ毫モ低落スルナカリキ、其後嘉永四年ニ組合制ハ再び復舊セラレタリ、而シテ當時ノ商工業ガ如斯機關ヲ組織シテ利益ヲ獨占セント企テタリシハ町人ノ勢力増進ヲ表示スルノ一表象ナリキ。

コレヲ要スルニ幕府ニアリテモ亦諸藩ニアリテモ各自隸屬ノ爲替組、藏元及ビ掛屋ナドイヘル御用達商人ハ勿論、大小ノ兩替商アリテ、幕府及ビ諸藩ノタメニ、或ハ米穀物產ヲ預リ、爲替ヲ以テ其代金ヲ遠隔ノ藩邸府庫ニ送り或ハ金融ヲ計リ勝手元ノ調達ヲ勤メテソノ需要ニ應ジタリシ故ニ、所謂町人ト稱セル財權ヲ生ジ漸次ニ政治圈內ニモ躍出シ得ルノ勢力ヲ養成セリ、即チソノ蓄積セル富力ヲ以テ官職ヲ買ヒ又ハ大格大祿ヲモ求メカクテ牙籌ヲ業トセル身分ヨリ轉ジテ其才能ヲ發揮シ

以テ弓馬ノ功ヲ立テシモノ、子孫ヲ凌駕スルモノアルニ至レリ、而シテ自ラ政治圈内ニ入ラザルモノハ直接ニ財權ノ勢力ヲ以テ諸侯ニ對セシナリ。例令バ米澤ノ上杉鷹山ガ酒田ノ本間及ビ越後關村ノ渡邊ニ募債シテ僅ニ藩政ヲ持シタリ、又肥後ノ細川家ガ表高五十四萬石、實際ハ七八十萬石ノ國持大名タルニ拘ラズ、越中守宗孝橫死ノ頃財政ノ窮乏甚シカリシガ大阪町人ニ依リテ漸ク身上ヲ取續キ得タリシガ如キハコレナリ。

(註) (1) 吉田博士 倒叙日本史 第五册 二二四頁

(註) (2) 橫井時冬氏 日本工業史

(註) (3) 「姫路木綿ハ、江戸ニテハ玉川晒トヨバレテ販路廣カリシモ、常ニ供給不足ノ有様ナリシ、河合(準之助)ハ會所ヲ置キ銀札ヲ發セシメ官吏ト商人ノ信用確實ナル者ヲ選ビテ其事ヲ委任シテ取扱ハシム、サテ村里所在ノ木綿ノ織屋ハ各自荷造シテ江戸國產會所宛ノ送狀ヲ添ヘテ飾磨港ナル運送問屋ヘ渡シ、其問屋ヨリ發スル貨物受取書ヲ得、之ヲ木綿會所ニ呈示セバ代價ノ六七分ヲ木綿札ニテ下渡サル、此木綿札即チ藩札ノ紙幣ニシテ織屋ハコレニヨリ第二ノ製産ノ元資ヲ得テ、ソレニ從事スルノ便利アリ。而シテ荷物ハ江戸着ノ上藩邸ノ倉庫ニ納メラレ、用達問屋ヘハ其見本ヲ渡シ以テ賣捌ヲ了ル、賣上金ハ藩邸ニ於テ萬般ノ費用ニ充テ、國許トノ爲替法ニテコレヲ決算セラル。此河合ノ木綿會所ノ仕組ハ產業組合ト銀行業トヲ兼子シ者ニテ、又藩札引換所ヲ設置シケレバ世上ノ信用ヲ博シ頗ル藩内流通ノ自在ヲ致シタリ」云々(中談會錄)十五萬石ノ姫路藩ハコノ國產獎勵ニヨリテ宿債七十五萬兩(現時ノ價格略千萬圓)ヲ數年ノ後ニ償却シ得タリ、而シテコレ文化中河合準之助ノ畫策セルトコロナリ。

(註) (4) 吉田博士 倒叙日本史 第五册 二二四頁又ハ五四頁

(註) (5) 鍋島家ノ有田黨(伊萬里燒)、松浦家ノ平戶燒、前田家ノ九谷燒、島津家ノ薩摩燒、其他尾張ノ瀬戶窯、美濃會津ノ陶器及ビ京都清水燒、伊勢ノ萬古燒等アリ

(註) (6) 吉田博士 倒叙日本史 第五册 一五五六頁

(註) (7) 橫井時冬氏 日本工業史

(註) (8) 吉田博士 倒叙日本史 第五册 二一五頁

(註) (9) 同 書 第五册 一九二頁

(未完)